

平成29年度 龍ヶ崎市牛久沼活用構想策定支援業務

牛久沼
「感幸地」
構想

北山創造研究所

牛久沼を名所へ

100年先につながる 感幸地づくり

牛久沼はまちの資産

資産はさらに磨きをかけることで

『感幸地』として輝き出す

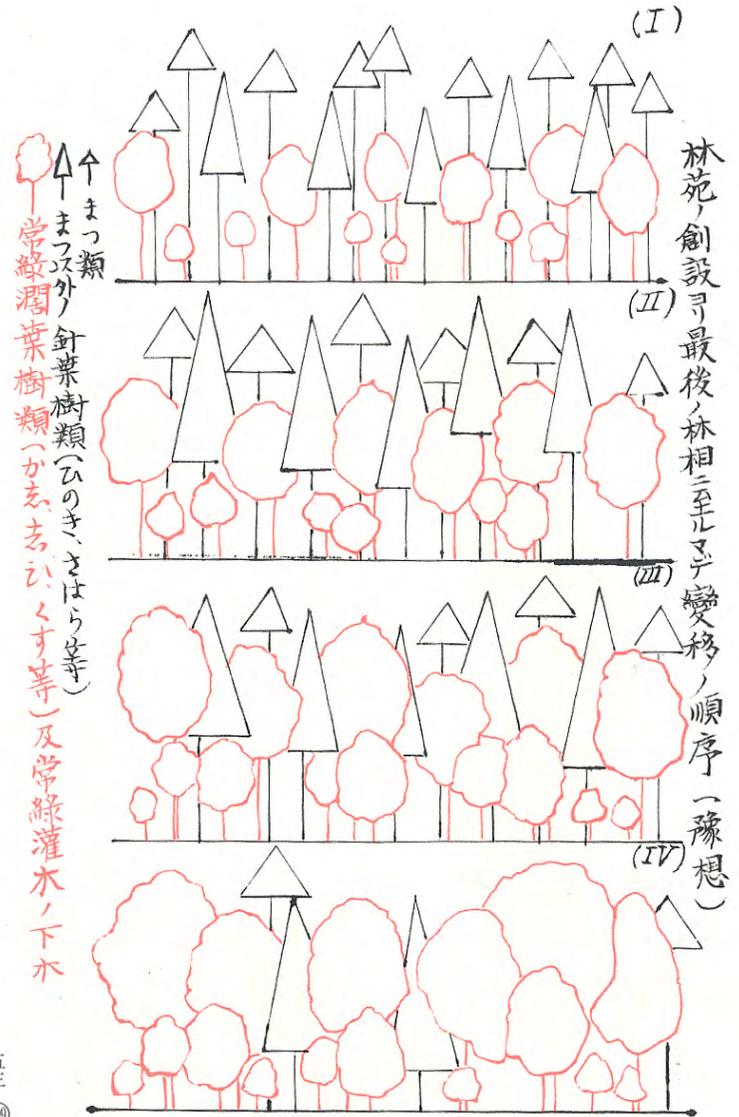
大正時代、明治神宮が計画された土地は当時ただの荒野でした。荒野だった敷地は現在、鎮守の森へと変化し、いまや東京都有数の名所となるに至りましたが、そこには計画当初から100年先を見据えた植林計画の貢献があったと言われています。約4.1km²の広大な水辺。美しい夕陽。水辺に生い茂る葦。水中に生息する多様な生物。大きな開発も行われず自然そのままの様相を保ち続けた牛久沼は、間違いなくこの地域の資産といえます。都心にほど近い「観光地」としてそのまま活用することは比較的簡単なことですが、牛久沼も明治神宮のように、この先長い時間をかけて磨きをかければ日本でも有数の自然環境として成長する可能性を秘めていると考えます。外から人々を集める「観光地」を越えて、地域の人々も毎日集まることの出来る「感幸地」へ。成熟した日本の社会が消費の先に求める必需品が「感幸地」としての牛久沼なのです。



左図：
大正初期の神宮敷地と
現在の神宮

神宮建設当初は広大な荒地だったが、
100年かけて鎮守の森となるように計画された。

明治神宮御境内林苑計画



五三
④

上図：大正初期に計画された「明治神宮御境内林苑計画」
計画図には「林苑の創設より最後の林相に至るまで変移の順序（予想）」とあり、
森林の変化が、4段階の林相予想図として描かれている。

目次

はじめに . 牛久沼を名所へ

1 . 牛久沼の目指す方向性 P3

- 1-1. 牛久沼名所化への方針
- 1-2. 賑わいづくりの考え方

2 . 牛久沼名所化への提案 P8

2-1. 自然環境をつくる P10

- 牛久沼水質改善への提案
- 牛久沼周辺の緑地化の提案
- 牛久沼 100 年先につながる緑のイメージ

2-2. 道・広場をつくる P15

- 「牛久沼トレイル」の提案_1
- 「牛久沼トレイル」の提案_2
- 「牛久沼トレイル」のストーリーイメージ
- 「牛久沼トレイル」コンセプトイメージ

2-3. 賑わいをつくる P21

- 賑わいの時代動向について
- 牛久沼賑わいエリアの立地特性
- 賑わいエリアの設定

2-3-A. 道の駅をつくる P26

- 道の駅の方向性
- 道の駅のアクティビティ
- 道の駅に求められる環境要素
- 道の駅のコンセプトイメージ（建築環境）
- 道の駅のコンセプトイメージ（休日マーケット）
- 道の駅のコンセプトイメージ（水際）

2-3-B. 水辺公園をつくる P33

- 水辺公園の方向性
- 水辺公園のコンセプトイメージ（水辺エリア）
- 水辺公園のコンセプトイメージ（芝生エリア）

2-3-C. 中の島をつくる P37

- 中の島の方向性
- 中の島のコンセプトイメージ

2-3-D. エリア A をつくる P40

- エリア A の方向性
- エリア A のコンセプトイメージ（テントエリア）
- エリア A のコンセプトイメージ（BBQ エリア）

2-3-E. エリア B をつくる P44

- エリア B の方向性
- エリア B のコンセプトイメージ（正面）
- エリア B のコンセプトイメージ（水辺）

2-3-F. 牛久沼までの道のりをつくる P48

- 佐貫駅から牛久沼までの道のりの考え方

まとめ . 100 年先の「感幸地」へ P50

1

牛久沼の目指す
方向性

1-1. 牛久沼名所化への方針

牛久沼活用の目的

牛久沼が誇る水辺の自然を活かした空間整備により、地域住民にとって憩いの空間を提供するとともに、広域を含めた観光交流人口の増加を目指す。

牛久沼活用の背景

- ・長年の懸案であった牛久沼の帰属に関する課題が整理された。
- ・連携が不可欠な沼周辺自治体との広域的なまちづくりを推進することとした。
- ・「龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年12月）」を策定し、牛久沼の豊かな自然環境と調和した道の駅を整備し農産品や加工品の販路拡大を図り賑わいを創りだすこととした。
- ・道の駅での賑わいを契機に交流人口の増加、就労機会の創出、それらに伴う地域経済の活性化を目指した。
- ・このような状況変化を踏まえ牛久沼全体を市民の憩いの場として、新しい観光地として活用される名所となるコンセプト・アイデアが必要になった。

エリア属性

人口 — 5km圏 **12.6**万人
 — 15km圏 **84.3**万人

※平成27年国勢調査より

牛久沼の概要

周囲約3.2kmの広大な水辺

白鳥・カモ・ウナギ・コイ・ワカサギ
 ブラックバスやアシ・マコモなどの
 多様な動植物

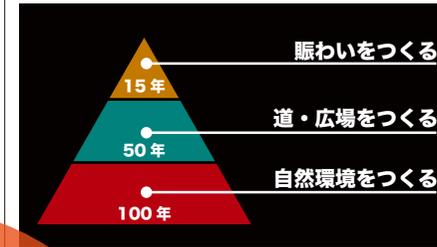
水辺に生息する豊かな自然環境

都心から約1時間、交通量1日
 3万6千台を超える国道6号に面する
 立地 ※龍ヶ崎市道の駅基本計画より

感動的な夕陽

長期的な視点で捉える

日本有数の名所として
 地域の資産となるような長期的な計画を



〈周辺エリアへの波及〉



誰も手を付けてこなかった空白地帯から
龍ヶ崎の新名所へ

龍ヶ崎市 牛久沼の
 自然環境を全身で体感できる
 日々進化し続ける「資産」へ
“感幸地”の創造

社会動向

大手スーパー **40** 店舗閉店
 アパレル **500** 店舗閉店
 メーカー
 電気量販店 **46** 店舗閉店
 ※2015年日経新聞より

物が売れない時代

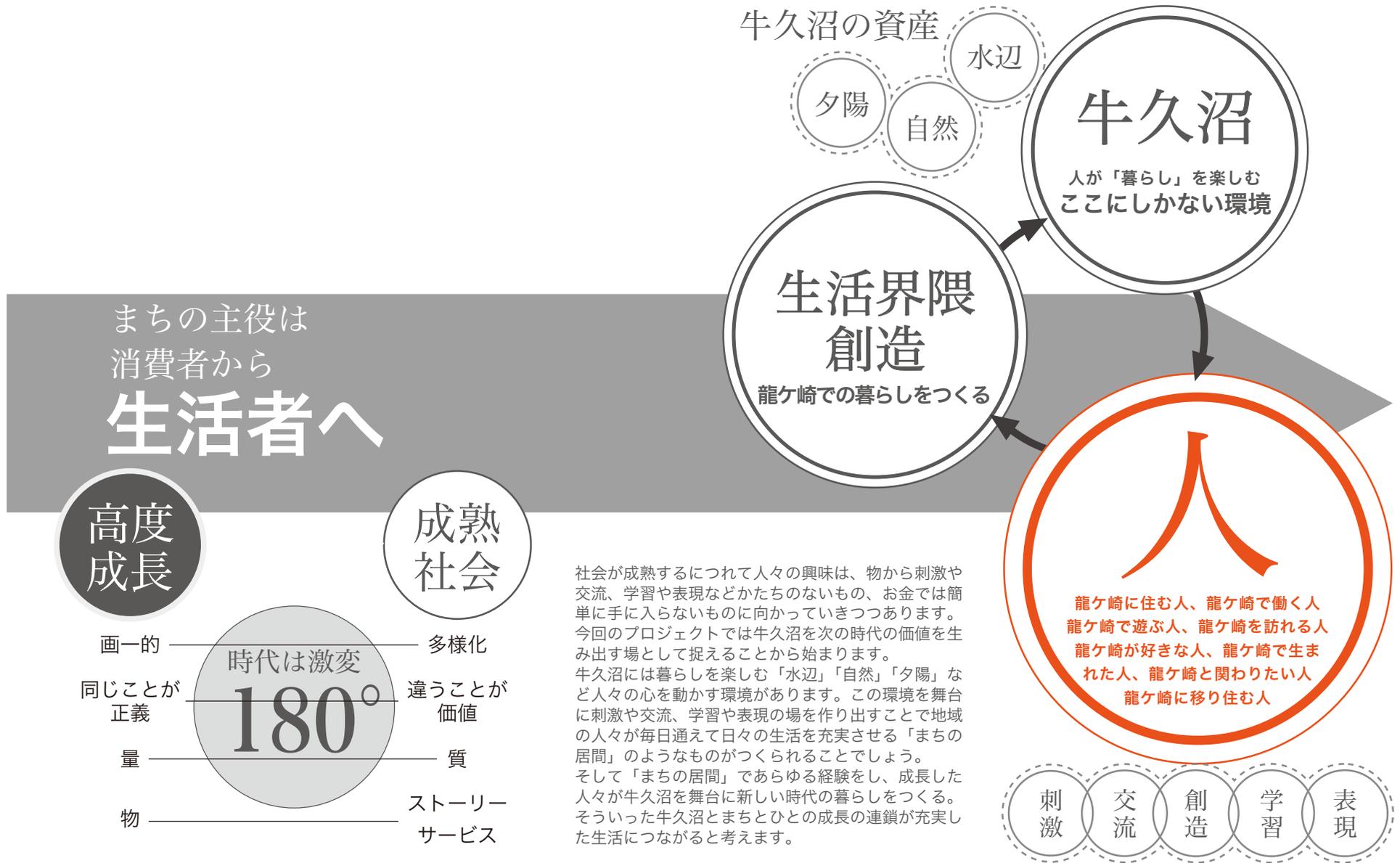
消費 → 実感



楽しく、自由に、毎日歩け、誰かに逢える。
 自然環境と賑わいが融合した心地よい環境整備

界限環境構想

1-2. 賑わいづくりの考え方



牛久沼における
メインコンテンツは

「水辺環境を最大限活かした賑わい」

牛久沼
がつなぐ

水辺と暮らしと賑わい

人×人×人...

人をつなぐきっかけづくり

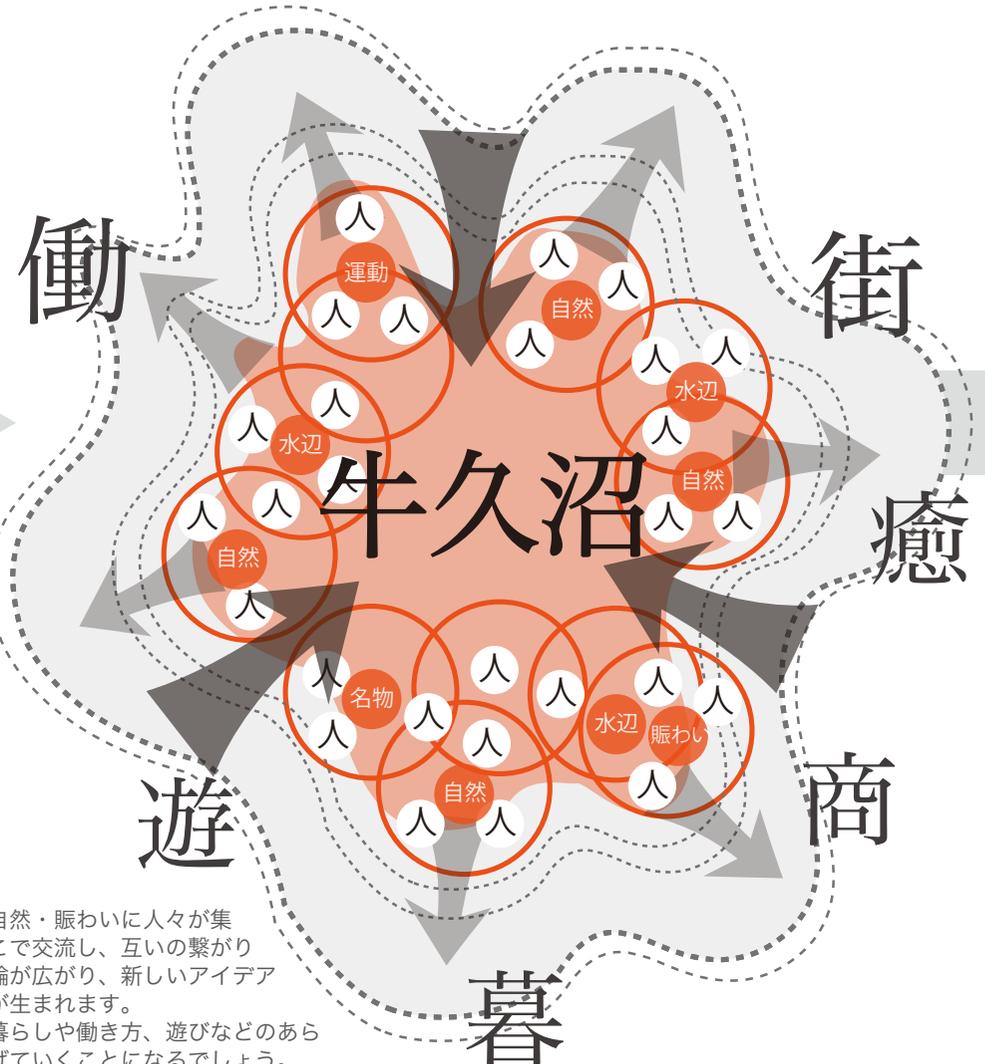
牛久沼の自然を中心にいくつもの
アクティビティを計画し、

水辺の愉しみを求めて賑わいが生まれる。

自然と愉しむ賑わいは新しい価値観をもつ

人々を呼び込み夢と希望を応援するまちの

新しい文化が生まれる。



牛久沼の水辺・自然・賑わいに人々が集まる。人々はその場で交流し、互いの繋がりを深くし、その輪が広がり、新しいアイデアやネットワークが生まれます。その輪は人々の暮らしや働き方、遊びなどのあらゆる可能性を広げていくことになるでしょう。

「感幸地」の誕生



人々の求める生活必需品は、消費や所有など物を中心とした価値ではなく、創造や共有など新しい価値を中心としたものになり、牛久沼を舞台にそれぞれの幸せを感じる場所「感幸地」を創り出すことでしょう。感幸地は名誉やお金など概念的な幸せではなく、私達の感性を直接刺激するようなコンテンツが中心となることでしょう。

これからは **消費** から **創造** の時代へ
 これからは **所有** から **共有** の時代へ

龍ヶ崎に
 「牛久沼」
 があった
 よかった。
 た。

ここに住んでよかった。
 ここで働いてよかった。
 ここに遊びに来てよかった。
 ここに生まれてよかった。

「龍ヶ崎でよかった」

ここに賑わいがあったよかった。
 ここに自然があったよかった。
 ここにあの人がいてよかった。
 ここで生きてよかった。

2

牛久沼
名所化への
提案

3つのサイクル

賑わい
をつくる
15年

道・広場
をつくる
50年

自然環境をつくる
100年

「自然環境」「道・広場」「賑わい」 それぞれのサイクルに合わせた計画を

「自然環境の名所化」「道・広場の名所化」「賑わいエリアの名所化」。

本構想は名所化を大きく3つのカテゴリーに分類します。

そして、それぞれのカテゴリーには時代の変化や人々の趣向の移り変わりに合わせて変化すべきタイミングがあります。

サイクルが一番長く、手をかければかけるほど価値を蓄積させるのは「自然環境」です。牛久沼の水辺や草木は明治神宮の森のように100年先の理想を描き時間をかけ育てていくことで他の地域には真似できない価値へと成長することでしょう。

そういった自然環境に寄り添うように計画する道や広場などの「公共スペース」は、地域の人々が日常的に使える飽きのこない場作りを50年のスパンで整備していく必要があります。

そして、時代や趣向の変化に影響を受けやすく施設のサイクルが一番早いのは商業を軸とした「賑わい」です。ネット社会の到来で商業にまつわる条件は日に日に変化し、15年先の賑わいでも予測が困難な状況が今の時代です。そういった大きなうねりに対応できるように施設づくりも15年を目安にリニューアルや建替えに対応できる計画が必要です。

この3つのサイクルをうまくコントロールすることで流行り廃りの影響を受けない100年先につながる「感幸地」が誕生します。



2-1. 自然環境をつくる

水 と 緑

牛久沼の「水」、その水辺に育つ木々や草花などの「緑」これらは牛久沼のかけがえのない資産です。

施設や商品など人が作り出すものは流行や風化などの影響でいずれ古くなってしまいうものですが、自然環境は人々が丁寧に手をかけさえすれば時間の経過にあわせて育つ普遍的資産です。

牛久沼は決して陳腐化しないうえに、改善し続けることでさらに輝き出す可能性を秘めています。

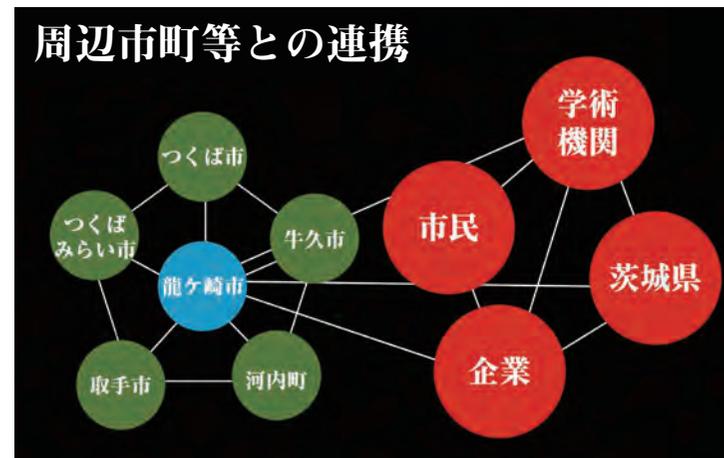
「水」と「緑」。

この2つの要素を徹底的に磨き上げることで、龍ヶ崎だけでなく周辺の地域にとっての「感幸地」となることでしょう。

泳げる牛久沼をめざして

周辺市町との連携が不可欠

牛久沼の水質の改善を考えると、龍ヶ崎市が単独で取り組みを行っても効果は限定的だと考えられます。西谷田川や谷田川、稲荷川など牛久沼への流入河川からの水質改善も同時に取り組むことで水質は劇的に改善されるはずです。牛久沼を所有する龍ヶ崎市が中心となり、周辺の市町を巻き込み、さらに市民や地元企業、学術機関や茨城県のを借り、互いに連携しながら「泳げる牛久沼」を目指すことが肝心だと考えます。



多角的な水質改善対策で「泳げる牛久沼」を目指す

東京の日本橋川は長年にわたる活動で、有害物質の浄化や悪臭の改善など、人々が舟遊びを楽しめる程度まで水質が改善されました。

もし、牛久沼が安心して泳げる水辺として生まれ変わるのならば、それだけで周辺地域のかけがえのない資産となることは間違いありません。長い視点で考えると、水質の改善は牛久沼を名所とするうえでは避けては通れない課題です。

周辺の市町と協力し、広域的な視点でいくつかの対策を実施することで「泳げる牛久沼」が実現すると考えます。

CASE_1



流入する水を改善する

牛久沼に流入してくる河川水を処理施設にて浄化し（直接浄化）、沼内の水質を改善する

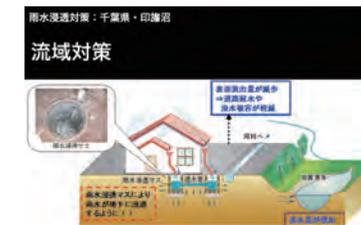
CASE_2



自然の浄化作用を利用する

水の浄化作用効果が高い植物を植える方法（植生利用）や、人が接するエリアを区切り部分的に水質改善を施す方法（流動抑制）、二枚貝の水質浄化作用を利用する方法などを使い分けながら水質を改善する

CASE_3



周辺からの汚濁負荷削減に努める

広域的な視点で水質改善に取り組む。面源（市街地系、農地系、自然系等）から流れてくる水を浄化する。雨水ます・管渠清掃、路面清掃、雨水浸透施設の設置、雨水貯留施設の設置等の実施により効果を発揮する

牛久沼は 多様で美しく 緑あふれる 環境へ



ワイルドガーデンのすすめ

ビエトオールドフガーデン (オランダ)

まるで自然の草原のような野趣あふれる景色を眺めるものを感じさせるのがワイルドガーデンの特徴です。しかし、その美しさはきちんと計算された色づかいや構成によってもたらされています。ワイルドでありながら繊細でどこかモダンさを感じさせるガーデンデザイン、植物が枯れる色合いまで計算し尽くし、四季を通じて植物の変化を楽しむデザインは新しいタイプのランドスケープデザインといえます。

参考資料：

(左図) ワイルドガーデンの計画図

(右図) 実施されたワイルドガーデン

参考イメージ

Highline New York (ハイレインニューヨーク)

ニューヨーク チェルシー地区にある廃線跡地を活用した「Highline」は植栽設計を特に重視して作られた観光地です。廃線となって放置され 25 年の間に生い茂った自生植物はなるべくそのまま残し、さらにそれに加えるかたちで美しい草花の景観を設計する手法がとられました。一年を通じて数百種の美しい花々を咲かせ人々を飽きさせない植栽は、専門のガーデナーと多くのボランティアの献身的な努力によって維持されています。また、草木の紹介にも力を注ぎ、フレンズ・オブ・ザ・ハイレインの公式サイトでは、毎週 Plant of the Week (今週の植物) というブログを発表し、写真と共に、ハイレイン内の植物を紹介するほか、蜂や鳥などの生物の働きも丁寧にブログで解説しています。



夏のハイレイン



秋のハイレイン



24時間365日美しい自然がここにはある

牛久沼 100年先につながる緑のイメージ



24時間
365日
龍ヶ崎の
誇りとなる
100年先
につながる
緑地計画





2-2. 道・広場をつくる

道 と 広場

高度経済成長期の必需品といえば、車、家電製品などのモノでした。
しかし、成熟した社会においては、もはや人々はモノだけでは満たされないし、感動
もしなくなりつつあります。人々が気軽に集まる事ができ、出会いや繋がりを与えて
くれる道や広場というのは、いわば成熟社会の必需品としてこれからの私達の生活を
豊かにするものと考えます。

「牛久沼トレイル」の提案_1

一周 20kmの道が 「人」と「自然」と「賑わい」を繋ぐ

100年先につながる牛久沼の自然をつくる。それは牛久沼の水辺を中心として多種多様な植物が根を張り、そこにあらゆる生物が集まってくる未来を創ることで。そういった自然を人々が楽しめるよう牛久沼の自然と人とを繋げる一周20kmほどの歩くひと・走るひと・サイクリングするひとなどがのびのびと使うことの出来る「牛久沼トレイル」[※]の整備を目指します。20kmという距離はウォーキングで5時間ほど、ランニングで2時間ほど、サイクリングで1時間ほどと、それぞれの目的に合わせて目安になりやすい距離だと考えます。水泳を加えればトライアスロンの練習場としても理想的な環境です。

※トレイル（自然散策ルート、自然遊歩道）

参考イメージ

San Francisco Bay Trail (サンフランシスコベイトレイル)

サンフランシスコ湾を一周する、自転車と歩行者のトレイルコースです。1986年にアイデアができ、今後はさらに延伸し、47の都市と9つの郡の海岸線を結ぶ計画が進行中です。



「牛久沼トレイル」の提案_2

周辺5市1町の力をあわせて 様々な魅力が散りばめられた感幸地へ

20kmの道程は歩くと半日ほどかかる距離です。

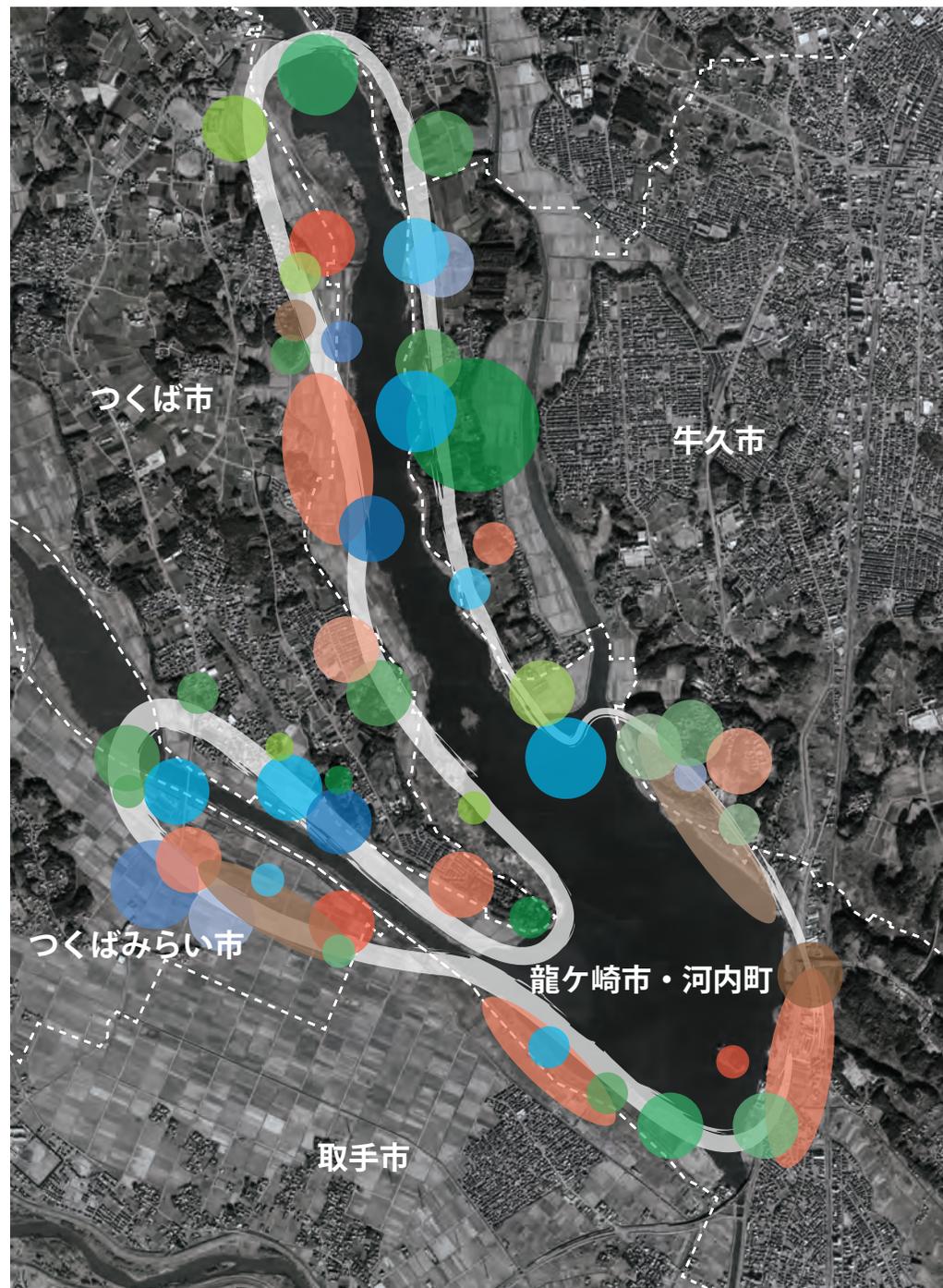
牛久沼の表情を眺めながら歩くことも魅力的ですが、せっかく周辺自治体が牛久沼を囲むように位置する特性を活かせないかと考えました。水辺や田畑を眺めながら歩き、ときには緑を抜けるトレイルの途中に各自治体の特色を活かしたコンセプトを設定した広場や拠点を設けることができれば、自然と文化が交じり合う他にはないエリアが誕生します。

例えば、牛久市は小川芋銭や牛久城跡など歴史的な資産が豊富なことから「歴史」をテーマに。牛久沼北側に面している研究学園都市としての顔を持つ、つくば市は「科学」をテーマに。沼の西側に位置するつくばみらい市は間宮林蔵の故郷という風土をもとに「冒険」をテーマに。東京芸術大学のキャンパスを擁する取手市は「芸術」をテーマに。そして野菜やお米、コロッケなど豊かな食に囲まれた龍ヶ崎市や牛久沼の水を水源とした農業をおこなう河内町は道の駅を中心に「豊食」というテーマなど。

そういった名所に加え、収穫前の水田や夕陽がよく見えるスポット、ダイヤモンド富士が撮影できる場所、白鳥が集う水辺など、今ある資産を加えるだけでも素晴らしい20kmになるはずです。

その先に行きたく自然と文化の魅力を散りばめ、どこからでも楽しく歩けるトレイルを目指します。

牛久沼
トレイル = 豊かな
自然環境 + 多様な
文化拠点



「牛久沼トレイル」のストーリーイメージ

一周 20km のストーリーをつづる

緑の中を抜け、水辺の上の栈橋をわたり、丘を登り、時には道がトランポリンのように跳ねたり。牛久沼トレイルでは植物や舗装材を工夫して一周 20km の物語を体験できるような表情豊かな道・広場を目指します。



イメージ

「牛久沼トレイル」コンセプトイメージ



現状

イメージ

水辺と一体化したトレイルへ



2-3. 賑わいをつくる

賑わい

名所の第一条件は「人が集まる場所」です。人が集まらない場所は、どんなに風景が美しくても名所にはなりません。名所は人と共有できる感動、体験を語り継ぐことで成り立っているからです。牛久沼が美しいだけでは本当の名所にはまだまだなり得ません。名所づくりに欠かせないことのひとつが人を集める仕掛けなのです。共に感動を共有できる大切な人を連れてきたいと多くの人々が思える場所へ。牛久沼の水辺を中心としたあらゆる仕掛けで多くの賑わいを生み出すことでしょう。

販わいの時代動向について

百貨店の年間総売上

1991年
9兆7,000億円

▼ 38%
DOWN

2016年
5兆9,780億円

*日本経済新聞より

ネット通販の市場規模

2001年
9,400億円

▼ 1,600%
UP

2016年
15兆1,358億円

*日本経済新聞より

「もの」より「おもいで」の時代 販わいは体験・発信型へ

インターネットの登場で人々の消費行動が多様化しています。

人々はただショッピングするだけではなく、買い物にも娯楽性や学びの機会を求める時代になっています。

郊外のショッピングセンターが人々を集めているのも映画館があり、イベントも多く子供が遊ぶ遊具など多くの楽しみを提供しているからです。気に入った商品はネットでいつでもお取り寄せできる時代になり、まちに求められていることは「売り場」ではなく、人生を豊かに彩ってくれる体験からくる思い出の「創り場」へと大きく変化しつつあります。例えば今回整備する道の駅にも、龍ヶ崎の名物をPRする「メディア」としての役割を強化することが望まれます。ネットでの繋がりや連動することを前提とし、気軽に龍ヶ崎の食や自然を体験できるような仕掛けが必要です。ここで体験した感動はすぐにネットで発信され、情報を受け取った人たちが牛久沼へ来る大きなきっかけになることでしょう。そして人から人へ発信される「おもいで」は地域の長期的な販わいに繋がっていきます。

販わいイメージ

SHED ー地域ブランドの発信源ー

カリフォルニアの片田舎にある「食」をテーマにしたコンセプトショップ。素材や加工品の他に庭先を農地に変える道具など、食の楽しみを打出した店舗。地域の産物と世界中から集めた質の良いものをミックスしながら取り扱う。ローカルの誇りとグローバルな視点を併せ持った感性は世界中のクリエイターに大きな影響を与えている。



牛久沼賑わいエリアの立地特性

牛久沼から半径 5km 圏内の

人口 126,850人

対象地域から
15km 圏内の人口
843,910人

2015年

高齢化率 25.8%

2017年 ※龍ヶ崎市統計

年間交通量 1,332万台

※龍ヶ崎市道の駅基本計画をもとに推計

半径 5km の生活者が
日常的に遊びに来ることができる
「まちの居間」を目指す

電車でも自動車でも都心から約 1 時間に位置する龍ヶ崎市 牛久沼。

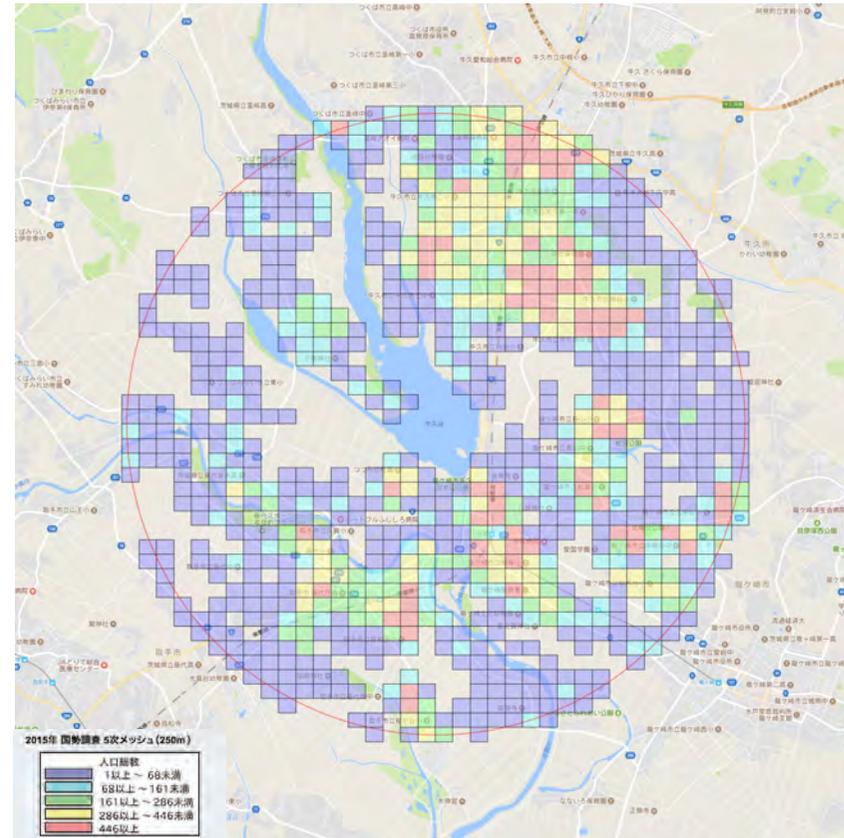
人工的な開発が長い間おこなわれず手つかずの自然の姿があちこちに見受けられ、その自然に集う多様な生物たち。ここは都心にほど近い静かな楽園。

国道 6 号（水戸街道）沿いの好立地は都心からの人々が集まる観光用の開発をと考えがちですが、地方も都心も観光客だけに焦点を絞ると陳腐化するのも早く、寿命の短い開発になりがちです。

龍ヶ崎市の人口は 2010 年をピークに少しずつ減り始め、高齢化率は 25.8% と増加傾向にあり、そういった時代に合わせるかのようにネット通販や宅配サービスは急激に進化を遂げつつあります。

これらの変化により将来的にはまちの消費を支えるべき商店の数も減少すると考えられます。

今回のプロジェクトはそういった地域のコミュニティを支え、末永く定期的に通える飽きのこない賑わいを第一に考えるべきです。地域の人々が集まり活気づくことで賑わいに独自性が現れ、観光客にも支持される場となり、将来的に龍ヶ崎の誇りとなる場に成長するでしょう。



牛久沼から半径 5km 圏内の少地域集計
「e-Stat 統計で見る日本」より計測

牛久沼名所化の起点へ6つの賑わいづくり

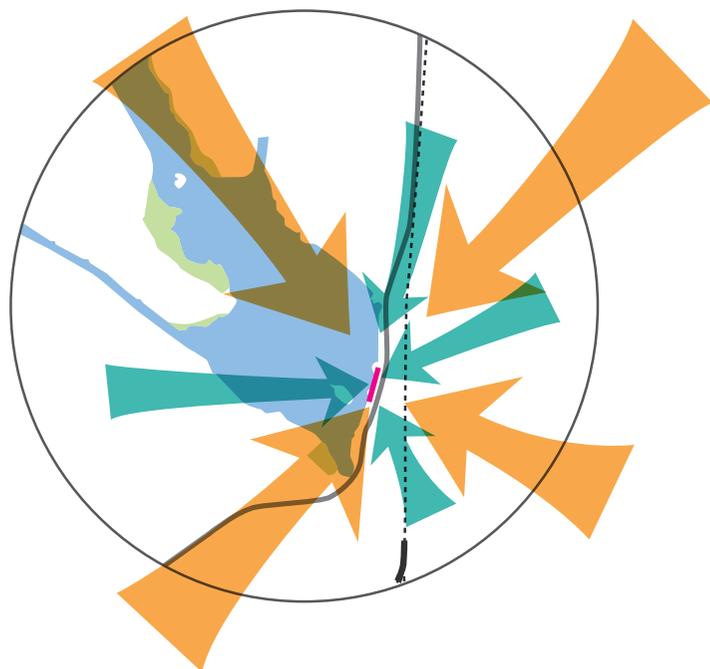


牛久沼トレイルの実現には周辺5市1町との広域連携が必須であり、今後長い年月が必要になります。当面は、道の駅を拠点とした賑わいづくりを皮切りに、水辺公園や中の島、国道6号線沿いのエリアA・エリアB、佐貫駅から牛久沼までの道のりと水辺の賑わいづくりに注力することを目指します。この6つの賑わいが名所化への足がかりになるはずですが。



ROADSIDE STATION

2-3-A. 道の駅をつくる



1. 地域の人々が自然に集う居場所へ

2. 地域の名物をPRする道の駅へ

3. 遠方から人々がやってくる名所へ

地元の人々で賑わう道の駅へ

勉強や宿題をしたり、ママ友との会話に花を咲かせたり、友達と将棋をさしたり。地域の人々が日常の生活の中で、自然に集う居場所が私たちの暮らしには必要です。なにも買わない人も思い思いに集い、自分の時間や友達との時間を過ごすことができる居場所となる。先ず第一に地域の人々に愛され日常的に使われるような道の駅を目指します。

第二に、道の駅の性質上、多くの乗用車やトラックが立寄ることになります。ふらっと立寄った来訪者に対し、地域の名物を楽しんでいただく場所へ。地元住民が自然に利用する道の駅だからこそ、既存の道の駅にはない独自性があると考えています。その独自性で地域発信力を上げる仕組みが必要です。

そして最終的には牛久沼を愉しむ人々の起点としての道の駅を目指します。牛久沼には、美しい夕陽や水上スポーツを楽しめる水辺、手付かずの自然環境など、観光地としてポテンシャルがあります。日常の憩いの空間になるだけでなく、遠方から人々がわざわざやってくる名所として、様々な人の来訪が望めます。現在は活かしきれていない牛久沼の賑わいをつくる、はじまりの一手として道の駅を位置づけています。

賑わいイメージ

サンストリート亀戸 一街の居間一



年間イベント回数 **700**回

年間来場者数 **1,000**万人

広場を中心とした低層の商業施設。広場では定期的にイベントが開催されたり、子どものための遊び場が設置され、ものを買う人も買わない人も思い思いに集い、時間を過ごすことができる居場所となった。より生活者の「日常」に特化した場所として、人々に愛されていた。



「日常空間」と「休日の賑わい」 双方に対応できる可変的な道の駅へ

地域住民が日常的に自然に集まる場として、カフェのようにおしゃべりや勉強ができたり、友達と集まって将棋やゲームができるなど、老若男女問わず思い思いの時間を過ごせる空間が必要です。

また、道の駅の中に自由な活動ができるスペースを用意するだけでなく、外部空間でのアクティビティを促進するプログラムも必要になってきます。内部空間と外部空間が自然に繋がる、居心地の良い空間構成を計画することで、来場する人々の利活用を促進していきます。さらに、名所としての発信力を上げるため、日曜日やフリーマーケットなどの各種イベントを開催しやすい広場や、地域住民が主体的に活動や発表ができる場、名物である夕陽を楽しむことのできる設えなど、賑わいを創出する外部空間計画が必要です。内部空間と外部空間、双方の利用を促進する可変的な道の駅を目指します。

賑わいイメージ

徳島新町ボードウォーク 一街の居間一



全長 290m
出店者数 50店舗

毎週土曜日と日曜日には新町ボードウォークパラソルショップ（非常設のパラソルの下に設置される店）が並び、多いときには50店ほどの店が並びます。北西端は傾斜のついた野外ステージがあり、ダンスショーやジャズ演奏などのイベントも頻繁に行われています。



日常

産直市・イベント・

おしゃべり・読書・勉強・ゲーム・

練習・ネットサーフィン

動画撮影・動画鑑賞・仕事・

休憩・犬の散歩・夕陽・etc

休日

日曜日・フリーマーケット・

ワークショップ

各種イベント・物産・発表会

休憩・夕陽・水辺・自然・

キャンプ・スポーツ・etc

道の駅に求められる環境要素

道の駅の必需品

消費や住み方が時代や土地に合わせて変わるようにパブリックスペースも時代に合わせて変化します。今回のプロジェクトは牛久沼周辺エリアが本来もち得る自然環境のポテンシャルを掘り起こし、他の道の駅では実現できない常識にとらわれないスペースを創るべきだと考えます。これからのニーズに最大限対応できる必要な環境要素が望まれます。

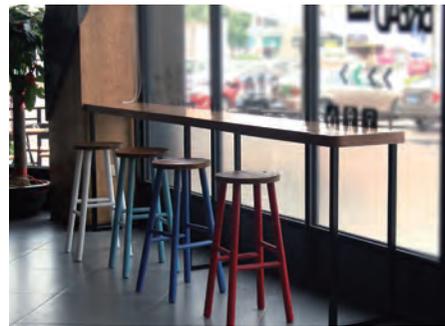
インフォメーションを兼ねたカフェ



牛久沼と夕陽を見渡せる休憩スペース



日当たりがいい場所は全て座席



屋外でも使えるインフラ



自然環境を感じる駐車場



ペットを連れてこれる環境



自然を感じることができるトイレ



自然の素材を活かしたファニチャー



主役は 牛久沼 水辺に ひらいた 道の駅へ



イメージ



現状

道の駅の最大の特徴は牛久沼に面した親水エリアであることです。国道側からの見え方も重要ですが水辺側から見た表情は何よりも重要な要素だと考えます。牛久沼からみた表情が豊かなことだけでなく、水辺を気持ちよく眺める設え、水辺を積極的に愉しむ仕掛けなど、ここでしか実現できない道の駅を目指します。

道の駅のコンセプトイメージ（休日マーケット）

週末には地域の 「とれたて」が並ぶ パラソルマーケット



現状



イメージ

道の駅のコンセプトイメージ（水際）



現状

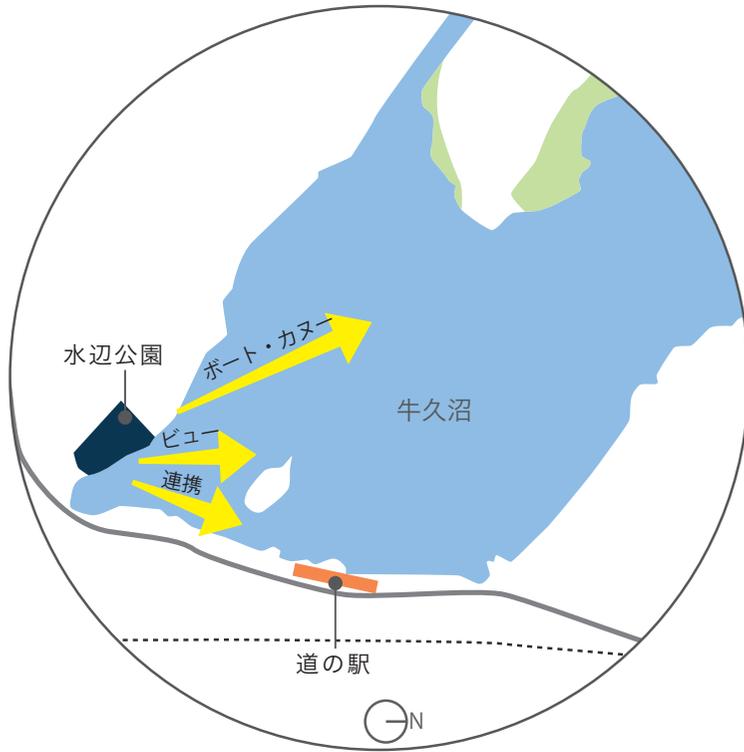
一日の終り、太陽が西へ沈む時
道の駅は「夕焼け劇場」に変わる



MIZUBE PARK

2-3-B. 水辺公園をつくる

水辺公園の方向性



1.水上スポーツの発着点

2.牛久沼を眺めて愉しむ

3.道の駅との連携

広場は成熟社会の必需品

牛久沼に隣接する水辺公園は道の駅のアクティビティと連携しながらも、その広大な敷地を活かしたのびのびとした活用のありかたを提案します。

朝日が正面に見えるこの広場では早朝のラジオ体操やヨガなどの毎日できる健康的なアクティビティからはじまり、日中はピクニックやお昼寝や釣りなど、消費をしない人も気兼ねなく利用できる自由度の高い広場をつくります。

公園の一部にはボートハウス&カフェを設置しボートやカヌーの発着点とします。将来的には道の駅とボートで行き来できるような連携も。ボートハウスやカフェの売上の一部は公園の管理に使用する仕組みを導入するなど、官民協働でより良い広場づくりを目指します。

アクティビティイメージ



賑わいイメージ

南池袋公園 ー新しい仕組みの広場ー



官民協働でより良い公園づくり

カフェが公園管理を担う

公園の管理者である行政、公園内のカフェを運営する地元業者、周辺に住んでいる利用者が集まり、公園運営を行うことで、より良い公園づくりを実現しています。またカフェは、売上の0.5%を公園運営に使い、公園のゴミ回収やトイレ掃除を行う仕組みになっています。



水辺公園のコンセプトイメージ（水辺エリア）



現状 **道の駅と連携する水上スポーツの発着点へ**

水辺公園のコンセプトイメージ（芝生エリア）



イメージ



現状

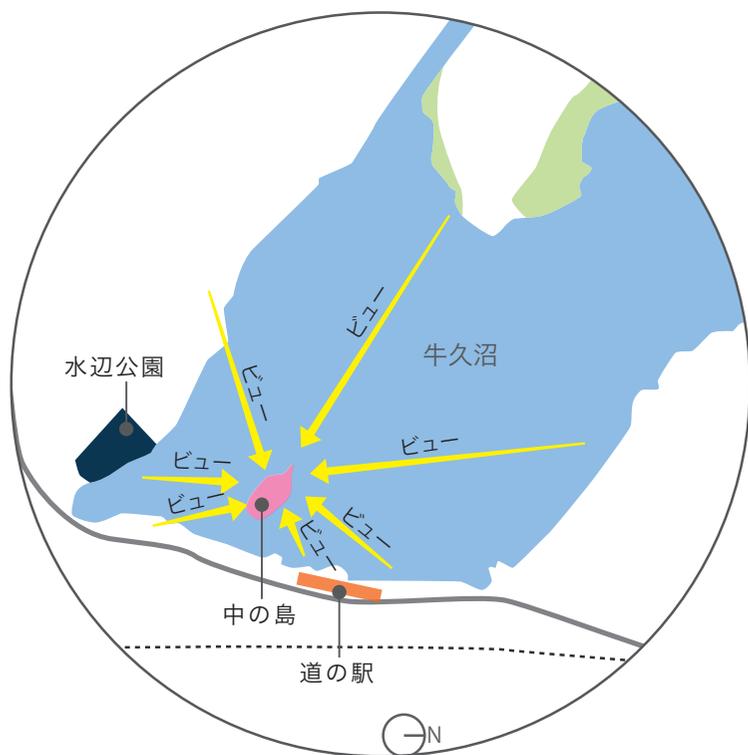
牛久沼を一望できる丘をシンボルへ



FLOATING ISLAND

2-3-C. 中の島をつくる

中の島の方向性



1.春には一面桜が咲き誇る島へ

2.どこの水際からも楽しめる島へ

3.一年に一度だけ渡れるイベントなど

(仮称) 中の島は「神秘の島」へ

牛久沼に浮かぶおよそ周囲 400m のこの島は、長らく周辺の人々に「中の島」と呼ばれてきました。民間施設の一部として活用された後は、長い間手付かずのまま残されていた島です。

牛久沼にポツカリと浮くこの島は、牛久沼周辺のどの場所からも眺めることができるのに、足を踏み入れることはほとんど不可能ということから、今では島の存在を神秘的に感じる人も多いようです。

今回の提案ではこの島が持っている神秘性を活かし、牛久沼のどこからでも眺めることのできる美しいシンボルとして整備することを提案します。

例えば島一面に桜を植えれば、花見のシーズンには牛久沼のどの位置からも桜を楽しむ事ができる名所となります。例えば島の全体を「たつこの山」のように隆起させれば、世界中どこにもない景色をもつ名所となることでしょう。

牛久沼の水辺からならどこからでも見ることができる。しかし島には簡単には渡れない。中の島はそういった神秘性を秘めた島へ生まれ変わります。

賑わいイメージ

松江市 嫁ヶ島 — 「眺めるためにだけある島」と評された名所一



嫁ヶ島は、島根県松江市嫁島町の西約 200m に位置する宍道湖唯一の島。全長 110m、幅約 30メートル、周囲 240m の島です。夕陽スポットとして知られており、「日本夕日百選」にも登録されている。

年に数回、湖岸から張られたロープを伝って島まで渡るイベント「歩いて渡る嫁ヶ島」が開かれる。湖岸から島まで 220m 程度しか離れていないうえ水深も最大 130~140cm と浅く、子供も多く参加する。



中の島のコンセプトイメージ



イメージ



現状

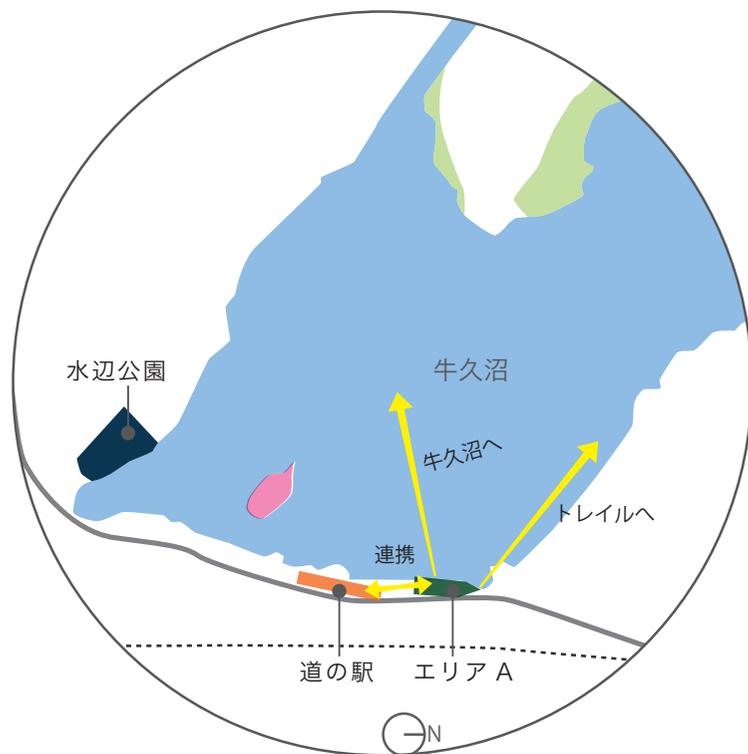
牛久沼全体が花見スポットに



AREA_A

2-3-D. エリア Aをつくる

エリア A の方向性



1.牛久沼に泊まれる拠点へ

2.BBQなど道の駅との連携が可能

3.テントサウナなどのアクティビティで1年を通した賑わいを

牛久沼の自然環境を全身で体感できる アウトドア・パークへ

エリア A のスペースには牛久沼の自然環境の中で宿泊できるアウトドア・パークを提案します。アウトドア・パークではテントでの宿泊の他に日帰りで利用できる BBQ (バーベキュー) スペースなどの基本スタイルに加え、マウンテンバイクの拠点、カヌー・ボートなどの水上スポーツのアクティビティや冬場はテントサウナを導入したサウナキャンプなど水辺の特徴を活かし、1年中楽しめるアウトドア・パークを目指します。

アクティビティイメージ



BBQ



マウンテンバイク



カヤック



テント・サウナ



サウナ後の冷水浴

賑わいイメージ

キャンパス ホテルー自然の中のアクティビティ拠点ー (ノルウェー)



マウンテンバイクトレイルコースの中にあるノルウェーのグランピング施設
8つのテントとサウナと食堂で構成され、サウナの中に湖で泳いだり、スポーツマッサージを受けたりと、長時間スパを楽しむこともできます。また、レンタルサイクリングやバイク専門のガイドもあり、経験の少ない人でも気軽にマウンテンバイクを楽しむことができ、自然の中のアクティビティの拠点になっている。



エリア A のコンセプトイメージ (テントエリア)



現状

24 時間牛久沼を堪能できる
アウトドア・パークの誕生

エリア A のコンセプトイメージ (BBQ エリア)



現状

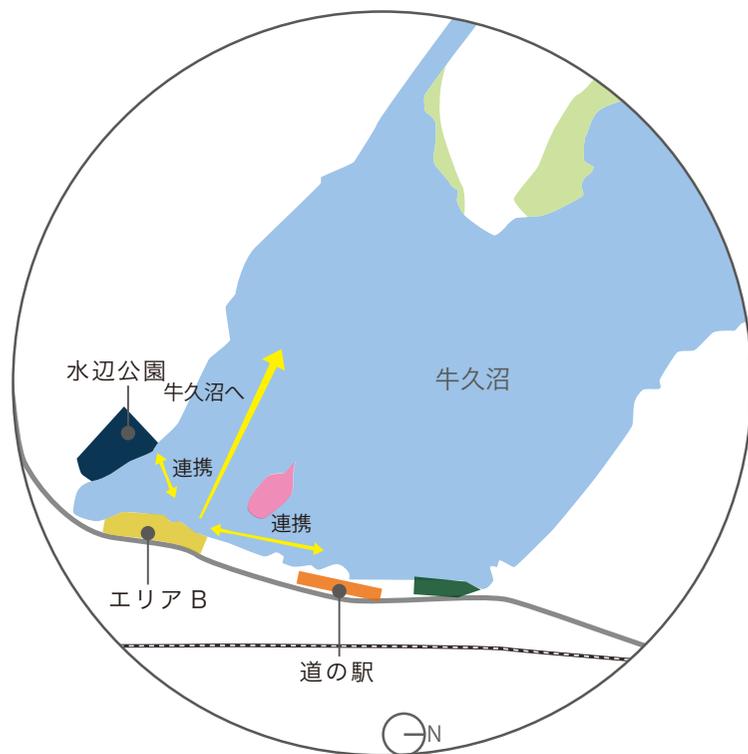
地域の食材を堪能できる BBQ パークへ



AREA_B

2-3-E. エリアBをつくる

エリア B の方向性



1.水上スポーツを幅広く学べる場へ

2.アウトドアギアを扱う専門店併設

3.スポーツ合宿などの拠点へ

水上スポーツを気軽に学べる 「牛久沼 水辺スクール」へ

エリア B のスペースには牛久沼の水辺を活かした水上スポーツやレジャーの拠点施設としてアウトドアブランドやスクールなどと共同で開発することを提案します。

拠点施設では水上スポーツの楽しみ方を教えるスクール機能を軸にアウトドアグッズの販売やカヤックやボートの貸出、水上スポーツサークルなどが利用できる合宿スペースなど水上アクティビティに特化した拠点施設を目指します。ここから船で道の駅や水辺公園に行けることで初心者でも楽しむ周遊コースができ、さらに幅広く牛久沼を学ぶことができます。

アクティビティイメージ



スクール



アウトドアショップ



シャワールーム



カフェ



ギアの貸出

賑わいイメージ

WEST WEST ーラフティングの聖地ー (徳島)

徳島県 大歩危小歩危エリアにある複合施設。

アウトドアブランド「mont-bell」が参画したことで溪流を活かしたラフティングの聖地となり、世界大会も開かれる名所となった。



エリア B のコンセプトイメージ (正面)



イメージ



現状

水辺にたたずむ水上レジャーの拠点へ

エリア B のコンセプトイメージ (水辺)



イメージ



現状

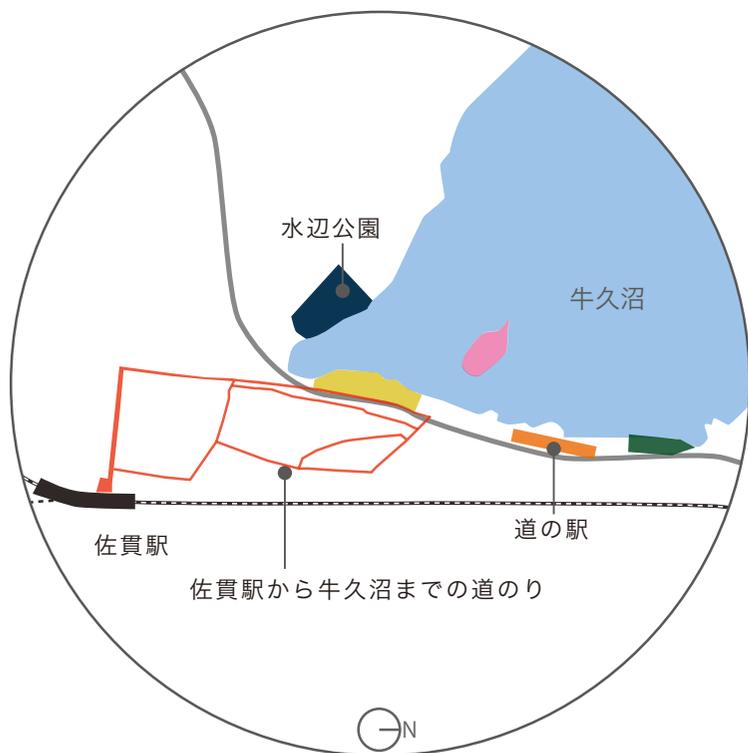
あらゆる水上スポーツを学ぶ拠点へ



STREET DESIGN

2-3-F. 牛久沼までの道のりをつくる

佐貫駅から牛久沼までの道のりの考え方



1. 誘導サインをオリジナルのものに

2. 龍ヶ崎のキャラクターと連動したサインデザイン

3. シェアサイクルなどの採用

牛久沼まで楽しい仕掛けがいっぱい

普段見慣れている交通標識を楽しくデザインして、佐貫駅から牛久沼まで大人も子供も楽しく移動できる仕掛けを提案します。新しくデザインするサインは龍ヶ崎のキャラクターをモチーフにし、ユーモアあるデザインとし、佐貫市街地エリアと牛久沼を楽しく繋げます。

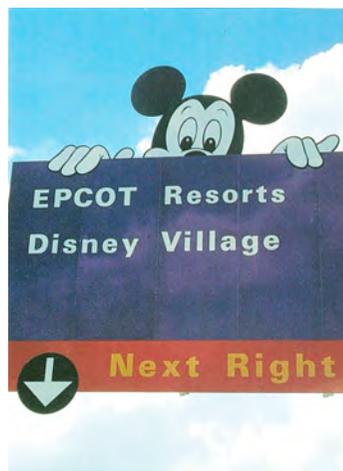
その他、駅から牛久沼までシェアサイクルを導入し今よりも気軽に牛久沼へアクセスする仕組みも整えます。



賑わいイメージ

ディズニーワールドのサインシステム — 目的地までワクワクさせる仕掛け—

(アメリカ)



フロリダ州にあるディズニーワールドでは園内の案内図(サイン)はもちろん、空港からディズニーワールドに至るハイウェイにまで、ディズニーの世界観を模したサインを展開している。通常のハイウェイサインは緑色の下地に白の文字だが、ディズニーが展開したサインは紫色と赤色の下地に独自の書体を使用したオリジナルなものに変更した。これは目的地まで向かう観光客を徐々にディズニーの世界に誘い込み、車内の観光客の期待感を盛り上げる役割を果たしている。



100年先の「感幸地」へ

美しい水辺、多様な生物、豊かな草木、感動的な夕陽、水辺から見渡すことの出来る富士山や筑波山など
牛久沼にはすでに他の地域では得ることのできない豊かな自然環境があります。

この自然環境は龍ヶ崎市をはじめ周辺の地域にとってかけがえのない「資産」であることは明らかなです。

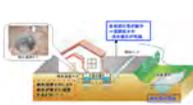
本構想は豊かな自然と寄り添うように少しだけ手を加え、人と牛久沼の接点を数多く創ることで、
牛久沼と共にある生活が地域の人々の心と体を豊にする「感幸地」へと成長することを目標としています。

多くの観光地のように外から人を呼びこむだけの場所として消費するだけではなく、
継続的に牛久沼の自然を守り育ててゆく思いの輪が何より大切です。

100年先の「感幸地」へ。

ここで生まれ育ち生活する全ての人々が「龍ヶ崎でよかった」と思えるまちづくりを目指します。

引用画像リスト_01

ページ	画像	引用元	備考
P1		http://natgeo.nikkeibp.co.jp/nng/article/20110722/278551/	
P1		http://natgeo.nikkeibp.co.jp/nng/article/20110722/278551/	
P1		『明治神宮叢書』 第13巻(造営編2) 明治神宮／編 国書刊行会 2004.7「明治神宮御境内林苑計画」影印より	
P12		http://shinotsuka.net/?m=201403	
P12		http://tegasanpo.com/?p=574	
P12		http://inba-numa.com/torikumishoukai/torikumigiyou/shintoutaisaku/	
P13		Thames & Hudson社 出版 「Piet Oudolf: Landscapes in Landscapes」より	
P13		https://oudolf.com/garden/maximilianpark	
P13		http://www.thehighline.org/blog/2015/10/23/photos-autumn-on-the-high-line	
P14		http://www.diptyqueparis-memento.com/en/the-gardens-of-piet-oudolf/#	

引用画像リスト_02

ページ	画像	引用元	備考
P14		https://oudolf.com/garden/oudolf-hummelo	
P14		https://torontobotanicalgarden.ca/explore/themed-gardens/entry-garden-walk/	
P14		http://www.landezine.com/index.php/2013/04/zac-andromede-park-by-acte-2-paysage/	
P14		https://oudolf.com/garden/maximilianpark	
P12		https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Single_Page_Bay_Trail_Map-2017.pdf	
P12		http://www.hikesandlakes.com/casanfran.html	
P13		http://www.baycrossings.com/dispnews.php?id=2941	
P13		https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Benicia_State_Recreation_Area_Bay_Trail.jpg	
P13 P19		https://baynature.org/article/trail-laura-thompson/	
P19		http://www.landezine.com/index.php/2015/10/maselakepark-by-relais-landschaftsarchitekten/	

引用画像リスト_03

ページ	画像	引用元	備考
P19		http://www.landezine.com/index.php/2015/01/leisure-centre-of-madines-lake-by-urbicus/	
P19		http://www.landezine.com/index.php/2015/01/leisure-centre-of-madines-lake-by-urbicus/	
P19		https://www.domusweb.it/en/architecture/2015/07/13/the_infinite_bridge.html	
P19		http://www.landezine.com/index.php/2015/01/leisure-centre-of-madines-lake-by-urbicus/	
P19		http://www.nbwla.com/projects/community/summit-bechtel-national-scout-reserve	
P19		http://47191151.at.webry.info/200711/article_22.html	
P19		http://www.landezine.com/index.php/2017/04/the-parklands-of-floyds-fork-by-wrt/	
P19		http://www.landezine.com/index.php/2013/04/fast-track-by-salto-architects/	
P23		https://healdsburgshed.com/shop/	
P23		http://openforbusiness.opentable.com/qas/cindy-daniels-on-creating-the-healdsburg-shed-ecosystem/	

引用画像リスト_04

ページ	画像	引用元	備考
P28		https://blog.goo.ne.jp/tk_yeg/e/fd2e39188dff5587ba6a470dc3846f6c	
P28		http://stjohnenterprisesllc.com/images/Lounge-chairs-high-stool-chair-bar-stool-tables-Household-Starbucks-long-wood-bar-tables-and-chairs-small-tables-and-chairs.jpg	
P28		http://www.gondola-archi.com/works/view/7/%E6%B5%B7%E3%81%BB%E3%81%9F%E3%82%8B%EF%BC%B0%EF%BC%A1	
P28		https://www.dezeen.com/2017/06/22/high-line-network-website-launch-offer-advice-avoiding-gentrification/	
P19		https://asoview-news.com/article/11405/	
P19		http://sotonoba.place/picnicosusume	
P19		産調出版 出版 「現代建築家による“水”建築」より	
P19		http://toomilog.com/minamiikebukuropark	
P23		http://grip-magazine.jp/park	
P23		https://www.landscape-plus.co.jp/minamiikebukuro	

引用画像リスト_05

ページ	画像	引用元	備考
P38		https://amanaimages.com/info/infoRM.aspx?SearchKey=01801014812&GroupCD=1445465042&n o&rtm=likeimage	
P38		https://ja.japantravel.com/%E5%B3%B6%E6%A0%B9/%E5%AE%8D%E9%81%93%E6%B9%96%E3%81%AE%E8%8D%98%E5%8E%B3%E3%81%AA%E3%82%8B%E5%85%89%E6%99%AF/15322	
P38		https://tabi-mag.jp/sm0157/	
P41		http://web.goout.jp/activity/18852/	
P41		https://www.canvashotel.no/	
P41		https://www.jalan.net/kankou/spt_guide000000180413/?screenId=OUW1701&influxKbn=0	
P41		http://metos.co.jp/products/sauna/metos-outdoor/	
P41		http://www.d-laboweb.jp/special/sp565/	
P41		https://www.canvashotel.no/	
P41		https://www.canvashotel.no/	

引用画像リスト_06

ページ	画像	引用元	備考
P41		https://www.canvashotel.no/	
P45		http://www.akioota-navi.jp/html/kankou_play_rapid-k.html	
P45		https://asoview-trip.com/article/8677/	
P48		プロセスアーキテクチャ 出版 「サスマン・プレジャー事務所：グラフィックを超えて」より	
P48		プロセスアーキテクチャ 出版 「サスマン・プレジャー事務所：グラフィックを超えて」より	
P48		プロセスアーキテクチャ 出版 「サスマン・プレジャー事務所：グラフィックを超えて」より	
P48		プロセスアーキテクチャ 出版 「サスマン・プレジャー事務所：グラフィックを超えて」より	